令和 2 年度　　（別紙2）

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071501086
法人名	社会福祉法人　天光会
事業所名	天光園グループホーム
所在地	福岡県大牟田市大字宮崎1710-3
自己評価作成日	令和3年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

na	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　アーバン・マトリックス　福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	令和3年2月2日	評価結果確定日	令和3年11月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所は大牟田市北部に位置しております。地域密着型の活動として近郊住民の方とはサロンを展開し認知症の勉強会や健康についての講話、体操及び料理教室等で絆は深まっております。当事業所の利点でもあるバックアップ体制は特養3拠点、複合事業所の法人は強力なパイプ役となっております。「認知症」となられ入居生活が必要となられた環境の変化でも「周辺症状」が緩和され、本人様とご家族様が互いに想う気持ちが通じ合うようにと努力しています。健康面や精神面も医療機関との連携で全職員が細やかな気づきで良質な生活へのお手伝いをさせて頂いてます。

大牟田市内で様々な介護事業を展開する社会福祉法人天光会を母体とし、開設して21年目を迎えようとする歴史を持つ事業所である。個性的な平屋建て1ユニットの建物には地域交流施設・介護予防拠点が併設され、介護予防事業や地域住民との協働により設立された地域サロン「さつき会」の活動の場所としても活用されている。理念である「私達が目指す家庭的な生活」のもとに5ヶ条を定め、コロナ過で馴染みの関係性や地域交流、外出活動が制限される中ではあるが、入居者の方々同士がお互いに支え合える関係性を育みながら、「普通の暮らし」の継続に向けた自然体でのアプローチを重ね、理念の具現化に結び付けようとしていることがうかがえる。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：25,26,27）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：20,40）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：40）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：38,39）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：51）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：32,33）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：30）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印+P18:XFD36	
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,21）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,22）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
68	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念5ケ条を掲げており実践へと努めている。	地域密着型サービスとしての意義を踏まえた理念は、「私達が目指す家庭的な生活」をテーマとして、5項目の方針を掲げている。これまでに表現等を見直しした経緯もあり、現状に即した理念の具現化に向けた思いが伝わる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流はサロンを設立し協働関係は継続している。	町内会に加入し、地域交流施設を活用しながら、地域活動拠点として設立されたサロン「さつき会」の活動を重ねている。新型コロナ感染拡大防止のため、活動自粛は余儀なくされているが、情報共有を図りながら、必要時の連絡体制を維持している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	住民の方の困り事を地域リーダー役の情報等、独居の方の問題点を把握しながら介護予防相談センターへの協力を依頼している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃のGHでの生活状況や入退居もお知らせしていたが会議の開催できず構成員へは連絡を行っている。	家族や地域住民、民生委員、市役所、地域包括支援センター、あんしん介護相談員等の方々をメンバーとして運営推進会議を開催している。コロナ過の為、書面での会議開催を余儀なくされているが、行政や地域包括支援センターへの報告を行い、関係者との情報共有に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	指定更新の問い合わせや今回のコロナでの情報も相談を行っている。	通常開催の運営推進会議には、行政及び地域包括支援センターより出席を得ており、事業所の実状を共有し、提案や助言を得ている。また、新型コロナウィルスに関する対応や、制度上の不明な点の問い合わせ等について、情報共有を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束とならない知識と意識をもち学びと実践を重視している。	身体拘束の適正化に向けた指針の作成や研修の実施、委員会の開催等を通じて、より良いケアの実践に向けた取り組みを重ねている。個別の事例については、理念にも照らし合わせながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	事業所内研修を行った。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターにより学習会開催の依頼した。現在入居者様の利用はない。	成年後見制度や日常生活自立支援事業について、現状として活用事例はないが、資料の整備や学ぶ機会を確保することで、必要時にはサポートできるよう努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族への説明は丁寧な説明をと心掛けている。長期入院や退所事項が発生した時も改めて契約内容をお知らせで理解を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人様ご家族様との会話での中で言葉の内容を理解し、気持ちが少しでも寄り添えるように努めている。	コロナ禍以前は、クリスマス行事にあわせた家族会開催や、あんしん介護相談員の訪問等を受け入れている。面会制限をせざるを得ない状況の中、窓越し面会や電話連絡等による情報共有に努めながら、意見や要望の聴取に努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人内管理者会議等で相談の受け入れを柔軟に対応してもらっている。同じように他職員のストレス回避に努めている。	職員全員が常勤体制で勤務し、情報共有と意見交換が行いやすい状況である。法人としての相談体制にも配慮し、風通しの良い職場環境づくりに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を活用し希望が持てる職場と心掛けている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員間でも業務の重圧な面を柔和に、精神面でも軽減できるようにと関係性を大切にしている。	職員の募集・採用にあたり、理念の共有や人柄を重要視し、年齢や性別等を理由とする排除は行っていない。職員全員が常勤配置となり、人事考課制度を導入し、質の向上や向上心につながるよう取り組んでいる。職員個別の特技（レク・折り紙等）が発揮できる場面も大切にし、法人全体でストレスケアにも努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人は労務士による研修を予定している。職員個々の力を発揮できる環境へと努めている。	高齢者虐待防止や身体拘束、認知症ケア等を研修計画の中に盛り込み、職員への人権教育、啓発に取り組んでいる。理念の五項目の中に、「どんな時でも誇りや尊厳のある暮らし」を位置付けている。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人では新人研修に重視し離職等の回避に努めている。GHではこれまで培ってきた個々の能力を十分に発揮して頂いている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	これまではあんしん介護相談員意見交換会が開催してありましたが今回は他事業所の方との入退居の相談等で情報交換が多くできたかと思う。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の性格や認知症状の進行度を把握しながら、心配事などがお話して頂けるように誠意をもった対応に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人やご家族の思いを取り入れ信頼のある関係に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居されるにあたって健康面.精神面も情報と聞き取りながら、環境が変わっても先ず必要なケアを察知し対応と心掛けている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	夜勤職員は「今夜一緒に泊まります」との言葉かけの配慮を行っており、共同生活の不安を払拭されるように努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所としての目標でもあり、ご家族との関係性はより深く互いが持ち合う温かい時間を過ごして頂くようにと努めている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本来であれば知人.親戚.孫等々ご家族以外にも多くの方が面会に来られていた。その時に面会者への認識がない時は職員が介入し援助する場面も多々あった。	家族や親戚、旧知の方々の訪問をともに歓迎し、管理者・職員は施設的な対応とならないよう、来訪しやすい雰囲気づくりに努めている。コロナ禍以降、窓越し面会や電話対応を重ね、情報共有と関係性の継続に向けた細やかな配慮に努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じデイケアで一緒に通われ顔馴染みであったり、コミニュケーションが取れにくい方でも周囲の方が気配りされたりと和気あいあいとした場面がよく見受けられる。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後のご家族の方と繋がりは複数おられ電話や立ち寄られたりと親交は続いている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本個々の思いややりたい事の希望に添うケアをと努めているが、困難と思われる時はカンファレンスやご家族への相談で思いが解決するように対応している。	入居時より、家族の協力も得ながら、センター方式の活用も含めた情報収集に取り組み、「出来る事ややりたいこと」の継続に向けた情報収集を行っている。日々の関わりの中で、言葉や表情の変化、行動等から気づきを得ながら、各担当者による情報の追記も行われている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「やりたいこと、出来ること」を伝える力がある方へ、充実されるような支援に努め、意思疎通が困難なな方はコミニケーションの中から察知しご家族からも情報を得ている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状況や認知症の部分でも格差は大きいかと思う。健康面等その時の状況に応じた生活の援助に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要な援助を見出し良質な生活にと努めている。ご家族の希望も取り入れ、職員は個人と向き合い観察しながら課題に取り組んで、担当者が中心となっている。	本人、家族の意向を踏まえ、関係者の意見を集約し、居室担当者及び計画作成担当者が介護計画を作成している。他の利用者の方の見守りについても、双方向での必要性を意識しながら、今後は計画に位置付けていく方向であり、理念の具現化にもつながっている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎朝の申し送り時、情報交換を行い特変等の把握に努めケアプランの評価の際、担当者会議の中で気づき、変化に活かすよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な受け入れにと努めている。お仏壇の搬入や命日のお参りにも対応しており、随時変化により支援に努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	従来ならばボランティア訪問の方々との交流を行っていた所でした。地域の方はコロナを気遣われ畑の産物の差し入れを玄関先まで届けられて何かと心配して頂いている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居されるにあたってかかりつけ医をお薦めし継続をして頂いている。また専門医も必要な時はご家族と話し合いながら職員も同席している。	入居時に、かかりつけ医について確認している。複数の協力医療機関との連携を図り、往診体制の確保や受診の支援を行っている。他科受診については、家族とも連携しながら情報の共有を図り、適切な医療を受けられるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員より体調異変の報告で受診の必要性がある時は適宜対応している。病院へは病状の問い合わせで看護師、薬剤師へも相談や知る得たい内容をお尋ねしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先医療連携室との情報交換を行い、当施設の退居期間の猶予をお知らせし期間内の早期退院を伝達している。他にも医療に関しては多くの支援が必要なため関係性は大切にしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りの支援は行っていないことをお伝えしている。重篤な病因が判明した時のご家族の心の準備についても説明を行っている。	入居契約時に、重度化した場合や終末期のあり方について、看取りの支援は行っていない事業所としての方針を説明し、意向を確認している。法人内の施設や医療機関との連携のもと、状況の変化に応じて話し合いを重ね、方針の共有に努めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	特に夜間帯の事故対応の判断と応急手当は必須であるが近年の研修が出来なかった為法人では計画を立てている状況である。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	過去に市水の断水、凍結や同事業所では床上浸水の災害もあった。避難誘導の手順を確認のみで確認を行っており近々には消防署、法人防火管理者の計画が実施される予定。	各種災害対応マニュアルを整備し、避難訓練を計画している。法人内事業所では、過去には熊本地震や凍結、断水等の経験もあり、地域の井戸水を提供して頂いた経緯もある。コロナ禍以前は、避難訓練に地域の参加を得た実績もあり、ネットワークを活かした災害時の体制作りも期待される。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念やケアプランに掲げており、全職員の共通認識としている。尊ぶ気持ちを大切に取り組んでいる。	理念の5項目の中に、「どんな時でも誇りや尊厳のある暮らし」や「自分で出来る事、やれた事で充実感のある暮らし」を掲げている。研修計画の中には、マナー研修や高齢者虐待に関する改善と対策、認知症ケア等を位置付け、職員個々の意識向上に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	これまでの生活や性格の把握に努め利用者の安心と信頼関係を築くことで、気持ちの表出や自己決定が出来るように配慮している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時の気持ちやその方のペースに配慮し臨機応変に対応している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	在宅から入居された方は通販による化粧品をお使いだったりと入居者様の若さに驚かされる場面もある。普段着にでも一緒に「おしゃれ」を忘れられないように支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ感染予防として買い物による感染リスクを考慮した。今年度より更に健康面も考え栄養士の献立によるセントラルキッチンにより食事を楽しんで頂いている。皆さんにも好評である。	コロナ過の影響もあり、栄養士による献立の元、セントラルキッチンでの調理となる。季節感や個別の嗜好、機能に応じて、メニューや食事形態等に配慮している。熱中症対策と効果的な食品・栄養指導等が研修計画の中に位置付けられている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立でセントラルキッチンでの調理である。旬の物.行事食と細かい提供である。嗜好や口腔内、体調面の変化及び食べやすく食欲が出るようにと心掛けている。食事量水分量チェック表の実施。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の往診を受けている。口腔ケア契約を行い歯磨きの支援では職員へも指導頂いている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方のリズムに応じた時間誘導を行い不快な気分を避けている。排泄に関しての能力がある方へは自尊心を大切にして支援している。	排泄状況の把握に努め、トイレでの排泄を基本として、自尊心や不快感、負担軽減への配慮を大切にしながら、日中・夜間と個別の状況に対応している。排泄ケアに関する研修が、研修計画の中に位置付けられている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のパターンを把握しており。便秘が長引かないように支援している。乳酸菌等の補助的な物も応用し主治医への報告も行い指導を仰いでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否の方へは時間帯や声掛けの工夫を行っている。順番に拘りのある方には希望通り行っている。日中の入浴には拘りなく入られるため夜の入浴希望者はない状況。	基本的な入浴スケジュールは設定しているが、希望や体調、状況等に応じて、個別に対応している。拒否のある方には、声掛けやタイミング等を工夫し、無理強いとならないように支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に居場所の自己選択を勧めている。自室で過ごされる方も自分時間を作っておられる。睡眠サイクルの把握を行い主治医の指示指導もあり生活リズムの調整に努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容と期間等の確認を担当を中心に全職員が把握に努めている。投与内容の変更時は副作用や効能の結果は受診日に伝達している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	皆さんと楽しむ事が出来るカルタやパズル、一人でも集中できる脳トレ等々その日の状況で、ご希望も取り入れ工夫している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	これまでは買い物等随時支援できていたが、近々はドライブの支援で気分転換を支援している状況。以前は定期的にご家族の支援で外泊や外出もよくされていた。	コロナ過の為、これまでに行ってきた買い物や外泊等の支援は制限せざるを得ない状況である。中庭での外気浴や散歩、少人数でのドライブ等を実施し、個別の気分転換やストレスケアへの配慮に努めている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で財布を持たれている方も居られるが、預かり金からの支払いを任せられている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から届け物があった時、電話でご本人からのお礼と近況報告をされる支援を行い、定期的に県外におられる家族の方から固定電話があり居室にて子機での会話のお手伝いを行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有時間の最も長いリビングは解放感ある広々とした窓から四季を感じられる。廊下には季節の飾付や写真を掲示。、トイレ.洗面所等も迷わず行動が出来る環境へと努めている。	モダンで個性的な建物内には、開口部が大きくとられたリビング・ダイニングスペースがあり、明るく、開放的な空間となる。食卓や椅子、ソファー等、その時々に応じたくつろぎの居場所が確保されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に選んで頂いている。仲良くなられた方がソファーで談笑されたり、自室リビングの往来をされる方も他の方への気遣いがないようにと見守っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時ご家族の方とご本人様、お孫様も加わり間取りを調べ、お部屋づくりをされる方も居られる。自宅でも使い慣れた家具を継続的にお使いで、家族写真もあり心地良い空間が出来ている。	中庭に面して南向きに9室が配置され、掃き出しの窓により明るく開放的な居室となっている。ソファーやテレビ、ドレッサーや化粧品セット等が持ち込まれ、動線の確保にも配慮しながら、居心地良く、安心して過ごせるよう工夫されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室、トイレ、洗面所と迷われないよう案内のは行っている。独歩での行動の方には転倒防として後方から名前を呼び止めないように配慮している。		